

小 学 校

平成23年度

教育研究員研究報告書

総合的な学習の時間

東京都教育委員会

目 次

I	研究主題設定の理由	1
II	研究の視点	2
III	研究の仮説	2
IV	研究の方法	3
V	研究の内容	5
VI	研究の成果と課題	24

研究主題

よりよく問題を解決する力を伸ばす総合的な学習の時間

～他者と協同して取り組む学習活動の工夫を通して～

I 研究主題設定の理由

「知識基盤社会」の時代において学校教育では、社会の激しい変化に対応するために、児童の思考力・判断力・表現力等の育成が求められている。自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなどをねらいとする総合的な学習の時間では、これからの社会をたくましく生きるために必要な力を児童に身に付けさせることが重要である。

また、行動する前にあきらめてしまう、挑戦しようとする意欲をもてない、将来への夢を抱けないなど、自信ややる気をもてないなど、近年の子供たちの傾向は、社会的に見ても大きな問題となっている。このような背景からも、児童が横断的・総合的な学習や探究的な学習を通して、持続可能な社会の実現のため、社会の一員として、自分は何をすべきかなど、自己の生き方を考えることは、総合的な学習の時間において重視すべきことである。

平成20年3月に告示された小学校学習指導要領では、これまでの実施上の課題を踏まえ、総合的な学習の時間を総則から取り出して新たに章立てし、教育課程における位置付けが明確に示された。そして、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質や能力を育てることなど、総合的な学習の時間の目標が明示されることとなった。また、総合的な学習の時間の目標は、次の五つの要素から構成されている。

- 1 横断的・総合的な学習や探究的な学習を通すこと
- 2 自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し、よりよく問題を解決する資質・能力を育成すること
- 3 学び方やものの考え方を身に付けること
- 4 問題の解決や探究活動に主体的、創造的、協同的に取り組む態度を育てること
- 5 自己の生き方を考えることができるようにすること

今回の改訂では、総合的な学習の時間の特質や目指すところが端的に示され、育成する児童の資質や能力及び態度が明確に示された。そして、この目標は、これまでの学習指導要領の総則に示されていたねらいを踏まえながら、「探究的な学習」を通すことや、「協同的」に取り組む態度を育てることなどが新たに加えられた。

様々な問題が溢れる現実の社会では、目前の問題に粘り強く対処し、解決しようとする意欲や態度、知識や技能等が必要である。それらを身に付けるためには、身近な社会や人々、自然に直接関わる学習の中で、よりよく問題を解決する力を育てていくことが必要になる。よりよく問題を解決する力は、試行錯誤しながらも、新しい未知の課題に対応することが求められる時代において、児童が自立的に生きるために必要な力である。

そこで、本部会では、児童がよりよく問題を解決するためには、児童同士が互いに教え合い、学び合う活動や地域の人や専門家から話を聞き、協力を得るなど、他者と協同して課題

を解決しようとする学習活動を重視し、研究主題を「よりよく問題を解決する力を伸ばす総合的な学習の時間」、副主題を「他者と協同して取り組む学習活動の工夫を通して」とした。そして、児童がよりよく問題を解決するために必要な資質・能力を育成する学習活動の工夫と手だての開発を行った。

なお、本部会では、児童が自分だけの考えではなく、他者と話し合い、一緒に活動することによって解決の方法を導き出し、自分だけでは見いだせなかった視点に気付かせることができると考え、「他者と一緒に活動したり、話し合ったりしながら、よりよく問題を解決する児童」を目指す児童像とし、研究を進めることにした。

II 研究の視点

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編第1章総説「第3節 総合的な学習の時間改訂の要点」では、「問題の解決や探究活動の過程においては、他者と協同して問題を解決しようとする学習活動や、言語により分析し、まとめたり表現したりするなどの学習活動が行われるようにすること」としている。そこで、本研究では、児童がよりよく問題を解決するために必要な資質・能力を育成するために、他者と協同して取り組む学習活動を取り入れた。その上で、その学習活動の工夫と手だての開発を視点として研究を進めた。

他者と協同して取り組む学習活動としては、「多様な情報を活用すること」、「異なる視点から考えること」、「他者と力を合わせたり交流したりすること」を意図的・計画的に指導計画に位置付けることとした。そして、各時間において他者と協同して取り組む学習活動を行うための指導を工夫することで、多様な考えをもつ他者と適切に関わったり、社会に参画し貢献したりする資質や能力及び態度の育成につなげ、探究的な学習として児童の学習の質を高めることとした。

III 研究の仮説

I 研究仮説の設定

本研究を進めるに当たり、後述する基礎研究及び実態調査を基に、仮説を次のように設定した。

研究仮説

他者と協同して取り組む学習活動を工夫することにより、児童のよりよく問題を解決するための資質や能力を育成することができるだろう。

2 本部会における定義

(1) 他者と協同して取り組む学習活動について

本部会では、他者と協同して取り組む学習活動を「多様な情報を活用すること」、「異なる視点から考えること」、「他者と力を合わせたり交流したりすること」と捉えた。これらを通して、児童の学習の質を高め、社会への参画意識や貢献意欲をもたせていく。

他者と協同して取り組む態度を育むには、多様な他者との関わりを一層重視し、学習のねらいに沿って、他者と関わり課題解決を図る活動を指導計画に効果的に位置付ける必要がある。そこで、本研究では、課題解決を図る過程で、他者と協同して取り組む学習活動を指導計画に意図的に位置付け、児童に他者と協同して取り組むことを通して、よりよく問題を解決するための方法を身に付けさせることで、主体的に課題を解決する児童の育成を図ること

ができると考えた。

詳しい指導の工夫については、「V 研究の内容」の「1 他者と協同して取り組む学習活動について」にて述べる。

(2) よりよく問題を解決するための資質や能力について

よりよく問題を解決するための資質や能力とは、解決の道筋がすぐには明らかにならないことや、唯一の正解が得られないことについて、自らの知識や技能等を総動員して、目の前の具体的な問題に粘り強く対処し解決しようとする力のことである。この力を児童に身に付けさせるために、身近な社会や人々、自然に触れる活動を取り入れ、よりよく問題を解決するためには、どのようにしたらよいかを主体的に考えさせていくことが大切である。

探究的な学習を行う過程で、児童は学んだことを振り返り、その結果を継続して蓄積していく。そして、学習前の自分と学習後の自分を比較することで、自分の成長に気付くことができる。このことにより、自らの学習に対する自信をもつことができ、学習の質を高めることができると考えた。

IV 研究の方法

研究を進めるに当たり、次のような方法で研究主題に迫った。

1 基礎研究

基礎研究では、主に次のことを行った。

小学校学習指導要領、小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編、中央教育審議会答申（平成20年1月）等から、総合的な学習の時間の改訂の趣旨について共通理解を図った。

文献からは、文部科学省教科調査官等が執筆した総合的な学習の時間の指導の在り方等に関わる書籍を参考に研鑽を積んだ。

各種調査からは、「低年齢少年の生活と意識に関する調査」（内閣府、平成11年及び19年）、「高校生の意欲に関する調査—日本・米国・中国・韓国の4ヶ国の比較—」（日本青少年研究所、平成22年2月）等から、近年の子供たちの意識の傾向や実態を把握し、総合的な学習の時間に関わる課題について考察した。また、教育課程実施状況調査の結果から、東京都の公立小学校で取り組まれている総合的な学習の時間における学習活動の状況について実態を把握した。

そして、本研究員の所属校における総合的な学習の時間の取組について情報交換を行い、各学校の学習課題の特徴や年間指導計画の工夫、本研究員が講じている指導の工夫について紹介し合いながら、本研究の方向性を明らかにしようとした。

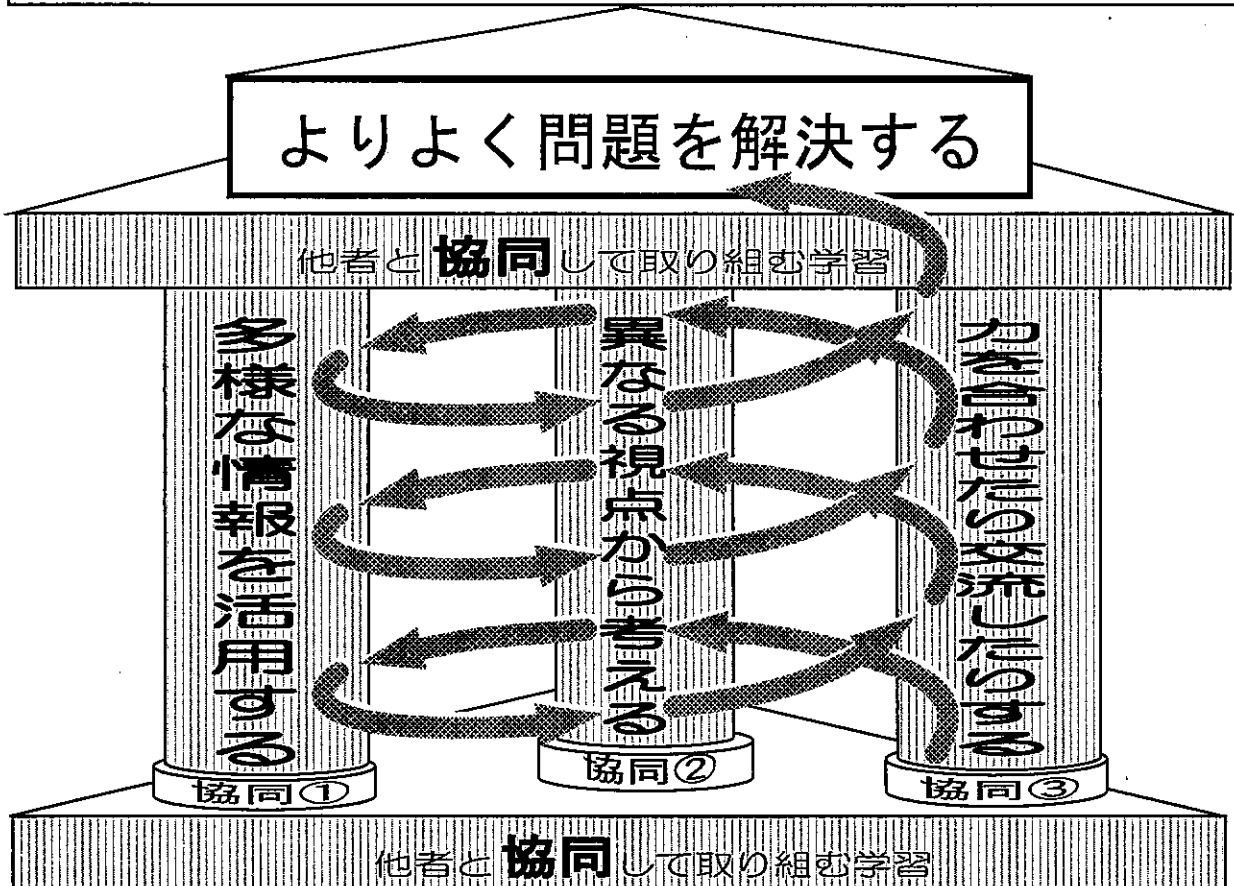
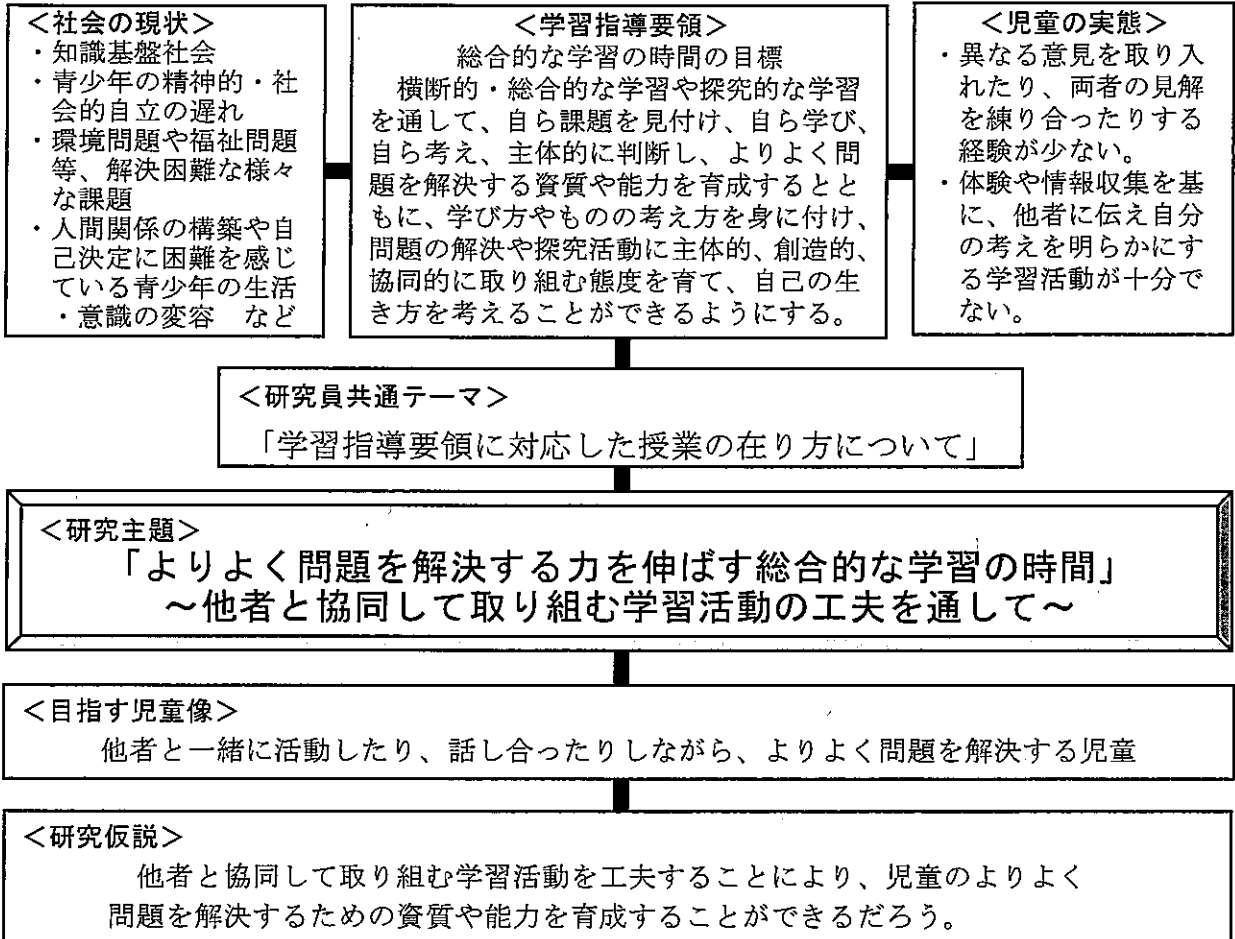
2 実態調査

総合的な学習の時間に関する児童の意識や実態を把握するため、本研究員の所属校にて児童を対象にしたアンケート調査を行い、児童の学習方法の傾向について考察し、授業改善の視点を明確にした。また、授業実践後には、事前の調査と同項目のアンケート調査を行い、児童の変容を把握した。

3 実践研究

基礎研究及び実態調査を基に仮説を設定し、授業実践を通して仮説の検証を行い、成果と課題を明らかにした。

〈研究構想図〉



V 研究の内容

1 他者と協同して取り組む学習活動について

(1) 「他者」の捉えについて

他者とは、普段一緒に学習をしているグループや学級の児童、学年や他学年の児童や教師を始め、ゲストティーチャー、地域の人々等、よりよく問題を解決する上で関わる人々や学習の成果を伝える人々と捉えた。

(2) 他者と関わり、よりよく問題を解決する活動について

他者と関わり、よりよく問題を解決する活動では、次の三つの活動を単元の指導計画に位置付け、取り組むこととした。

ア 多様な情報を活用して協同的に学ぶ学習活動

課題解決に必要な情報を得るため、地域の人や専門家などに質問したり、インタビューしたりすることや、見学、実験、観察、調査などの活動

イ 異なる視点から考え協同的に学ぶ学習活動

友達と話し合ったり、得られた情報を友達と整理・分析したりするなどの活動を通して、自分とは異なる視点から考える活動

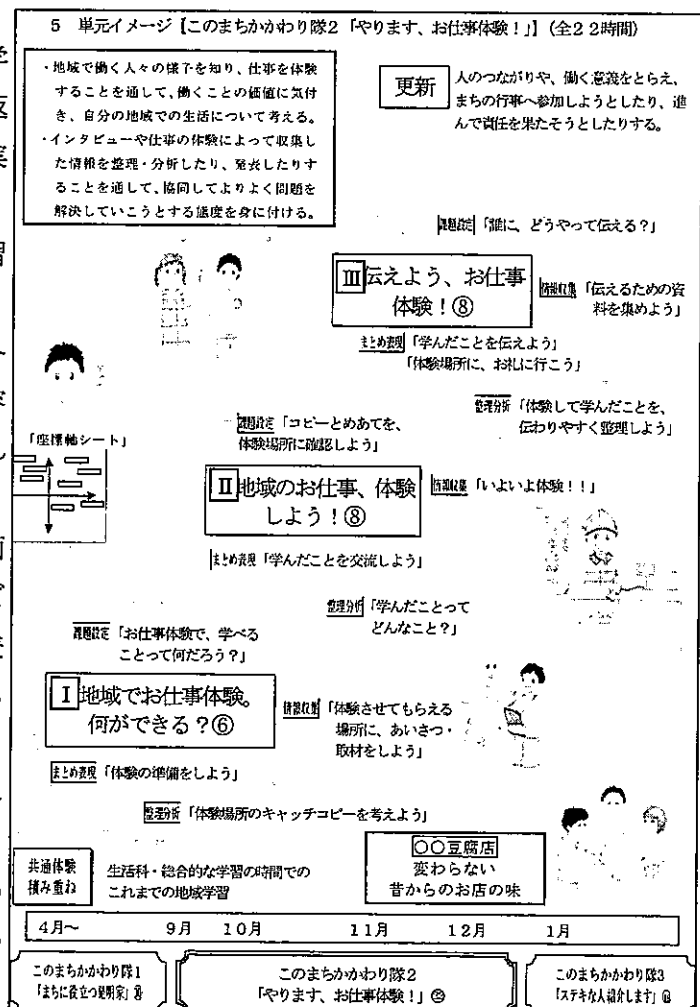
ウ 力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ学習活動

友達や地域の人と共に体験したり、学習したことを発信したりする活動

2 単元計画について

総合的な学習の時間では、探究的な学習や問題解決的な活動が発展的に繰り返されていく学習活動を通して、目標の実現を図ることが求められている。また、単元の指導計画を作成し、探究的な学習を意図的に単元の指導計画に位置付け、児童がよりよく問題を解決するための各単元の学習をより具体的にし、学習内容を充実させることが、喫緊の課題とされている。

そこで、本研究では、単元の指導計画を作成する上で、探究活動のまとめりごとに「探究Ⅰ」「探究Ⅱ」「探究Ⅲ」と表し、問題解決的な活動が「探究Ⅰ」から「探究Ⅱ」へ、「探究Ⅱ」から「探究Ⅲ」へと、発展的に繰り返されることを表した。また、「課題の設定」「情報の収集」等、探究的な学習の過程を示し、単元の指導計画の具体化を図り、各実践がどのような活動を行うのかを明確にした。



3 実態調査

(1) 調査の目的

- ア 研究仮説の立案及び検証授業の視点とするための児童の実態を把握する。
- イ 授業実践を通して他者と協同して取り組む学習活動を工夫することによって、よりよく問題を解決する能力を伸ばすことができたかを明らかにする。

(2) 調査対象及び調査方法

- ア 調査対象校 小学校4校（本部会部員所属校）
- イ 調査対象学年 第5学年及び第6学年
- ウ 調査対象人数 203名
- エ 調査対象及び調査方法

各部員の担当学年の児童を対象に、記名式の調査用紙を配布した。質問項目は以下のとおりである。

本調査は、仮説を検証するための実践を行う前の実態調査である。さらに、実践後に事後調査を実施し、児童の変容を把握し、仮説検証の視点が適切であったかを確かめた。

(3) 調査の内容

小学校学習指導要領解説総合的な学習の時間編により、他者と協同して取り組む学習活動として、三つの視点で捉えた。質問1及び質問2は、「多様な情報を活用して協同的に学ぶ」ことの実態把握に関する項目である。質問3は、「異なる視点から考え、協同的に学ぶ」ことの実態把握に関する項目である。質問4及び質問5は、「力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ」ことの実態把握に関する項目である。

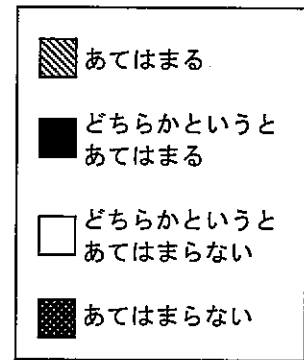
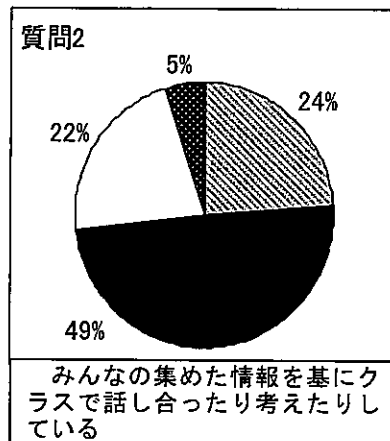
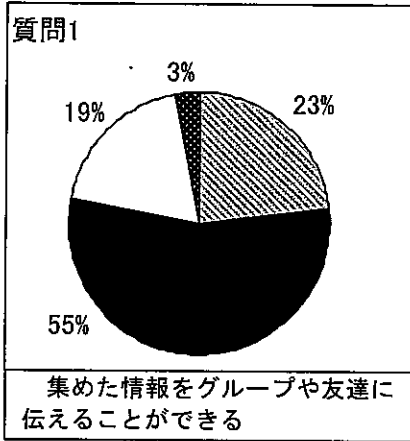
質問	調査項目
1	集めた情報をグループや友達に伝えることができる。
2	みんなの集めた情報を基にクラスで話し合ったり考えたりしている。
3	友達の意見を聞いて自分の考えと比べている。
4	友達やグループで力を合わせたり分担したりして、作品などにまとめることや発表することができる。
5	他学年や地域の人々などに関わって学習するよさが分かる。

(4) 結果と考察

質問1「集めた情報をグループや友達に伝えることができる」について、「あてはまる」又は「どちらかというにあてはまる」と答えた児童の割合は、78%であった。また、質問2「みんなの集めた情報を基にクラスで話し合ったり考えたりしている」ことについて、「あてはまる」又は「どちらかといえばあてはまる」と答えた児童の割合は、73%であった。一方、質問1及び質問2とも、約4分の1の児童が否定的な回答をしていた。

これらのことから、教師は、グループ活動における交流を効果的に行うために、互いの考えを交流することの目的や方法、集めた情報の分析方法を明確に提示したり、分析結果からどのように考えるのかということを丁寧に指導したりして、一人一人の児童が着実に「多様な情報を活用して協同的に学ぶ」ことができるようにすることが必要であることが分かった。

質問3「友達の意見を聞いて自分の考えと比べている」という質問に対して、「あてはまる」または「どちらかというにあてはまる」と回答した児童の割合は、69%であった。

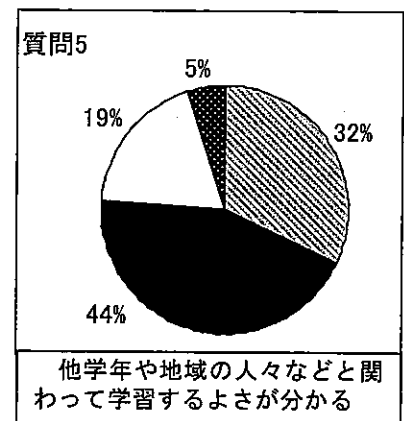
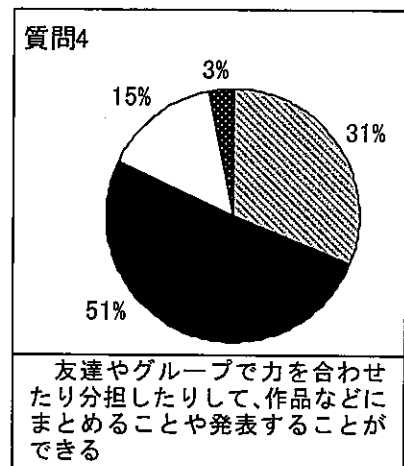
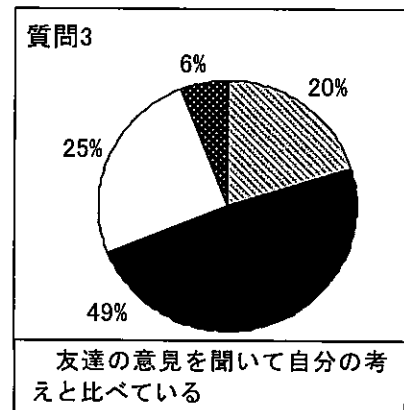


このことから、教師は、児童が自分の考えと友達や地域の人々など、様々な立場の人々の考えを比べて考える場面を指導計画に意図的に位置付け、様々な人々と出会い、それらの人々の考え方や価値観に触れさせる場面をつくる必要があることが分かった。

質問4「友達やグループで力を合わせたり分担したりして、作品などにまとめることや発表することができる」という質問に対して、「あてはまる」又は「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童の割合は、82%であった。また、質問5「他学年や地域の人々など関わって学習するよさが分かる」という質問に対して、「あてはまる」又は「どちらかといえばあてはまる」と回答した児童の割合は、76%であった。

このことから、「力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ」ことについては、意欲的に取り組んでいる児童が多く見られる一方で、24%の児童は、協同的に学ぶことのよさを実感していないのではないかと思われる。今後は、更に学習活動の中で友達と学び合うことの有用性を児童に実感させる指導を行っていくことが必要である。また、質問3と関連して、他者の考えを取り入れながら学習を進めることによって自分の考えが深まることを実感させていきたいと考える。

このような児童の実態を基に授業実践を行い、他者と協同して取り組む学習活動を工夫することによって、よりよく問題を解決する力を伸ばす方法を明らかにしていく。



実践事例Ⅰ 協同①「多様な情報を活用して協同的に学ぶ」ことに重点を置いた事例

1 単元名 5年「このまちかかわり隊2 ～やります、お仕事体験！～」

2 単元の目標

- ・ 地域で働く人々の様子を知り、仕事を体験することを通して、働くことの価値に気づき、自分の地域での生活について考える。
- ・ インタビューや仕事の体験によって収集した情報を整理・分析したり、発表したりすることを通して、協同してよりよく問題を解決していこうとする態度を身に付ける。

3 単元の評価規準

資質や能力及び態度	評価観点	評価規準
学習方法	課題設定	体験を通して、地域の仕事に関する課題をもち、その解決のための方法と手順を探り、追究しようとする。
	収集分析	インタビューや体験によって収集した情報を、分析ツールを使って話し合い、整理している。
自分自身	意思決定	課題の解決のために話し合い、必要なことを判断している。
	自己理解	地域の仕事を体験することで、働く人の思いに触れ、自分の生活の在り方を見直し、実践しようとしている。
他者や社会との関わり	他者理解	友達や地域の人々と関わり、異なる意見や考えを受け入れている。
	協同	友達や地域の人々と協同して課題を解決しようとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) チームでキャッチコピーをつくる活動

「お仕事体験」では、働くことの価値を感じさせたいと考え、体験場所の特徴や働く人の思いを表した「キャッチコピー」をつくる活動を取り入れた。

「キャッチコピー」は、①体験場所へのインタビューを基に、個人で考えた案、②観点を基に、チームで話し合った案、③他チームの意見を加味して、体験当日に持参した案、④実際にお仕事体験を行った上で再度話し合い、体験のお礼を言う際に仕事を体験させていただいた方に伝えたり、発表の際に活用したりするもの、と深化させていく。

単元を通して、多様な情報を他者と協同して言語化していくことで、働くことの価値を感じさせたい。

(2) 「座標軸シート」を活用した整理・分析する活動

考えを深め合うためには、考えの基になる根拠が必要である。そのアイデアのどこが良いのか、課題は何かということを分析的に捉えさせたい。そこで、「座標軸シート」を活用し、いくつかのアイデアを二元的に整理していくことで、自己の考えを振り返ったり、他者との考えと比較したりし、話し合いの際の考えの根拠をより確かにさせようと考えた。

「座標軸シート」は、情報を整理・分析する際に用いる座標軸の入ったワークシートである。シートの座標軸に整理・分析の観点を示し、その観点に沿って情報を整理・分析することで、情報をもつ傾向を視覚的に捉えることができる（11ページを参照）。

5 指導計画（22時間扱い）

探究		○学習活動	◇指導のポイント 【】 主な評価の観点
探究Ⅰ 「お仕事体験、 何が できる？」 ⑥	課	○「お仕事体験」の活動内容について話し合い、活動の計画を立てる。②	◇カードを活用したKJ法的な手法で課題を設定する 【課題設定】
	情	○体験場所を決め、挨拶に行く準備をする。① ○体験場所に挨拶に行き、どんな場所なのか取材をする。①	◇体験が可能な場所と人数を提示し、その中から選ばせる。【意思決定】 ◇体験場所へのインタビューにより、情報を収集させる。【収集分析】
	整	○取材してきたことを基に、体験場所の人の仕事内容が分かる「キャッチコピー」を考える。①（本時）	◇「座標軸シート」を使って、チームで検討させる。 ◇地域の人にキャッチコピーの感想を聞くことで、キャッチコピーをよりよくしようとする意識を高める。 【収集分析】【協同】
	ま	○「お仕事体験」の準備をする。①	◇キャッチコピーをカードに書かせ、のぼりに貼らせる。 【自己理解】
探究Ⅱ 「地域の お仕事、 体験しよう」 ⑧	課	○キャッチコピーと自分のめあてを体験場所の方に話し、仕事内容を確認する。 ○各体験場所で、仕事の体験をする。（二日間）⑥	◇保護者に体験活動のボランティアを依頼する。また、保護者や地域の人に参観してもらうことを依頼する。 【収集分析】
	整	○体験で学んだことを振り返る。①（体験の内容、お店の人の素敵な所、これからの自分、キャッチコピーの修正案）	◇個人で行わせる。学んだことを一度文章化させた上で、伝えたい項目をランキングによって整理させる。 【収集分析】
	ま	○学んだことについて、クラスで交流する。①	◇作成した原稿を基に、自分の言葉で語らせる。 【他者理解】【協同】
探究Ⅲ 「伝えよう、 お仕事体験」 ⑧	課	○誰に、どうやって伝えるか話し合う。①	◇KJ法的な手法により、課題設定を行わせる。 ◇伝える相手は4年生・保護者・地域の方を、方法はポスターセッション・PCによるプレゼン・冊子を想定しておく。児童に発表方法を決定させることで、相手意識を高める。 【課題設定】【意思決定】
	情 整	○伝えるための資料を整理し、足りない資料を収集する。 ○学んだことを伝える発表資料を作る。 ○伝わる発表か、確認し合う。⑤	◇ランキングを使って伝えたいことを整理させる。キャッチコピーの活用を促す。 【収集分析】 ◇国語の「グラフや表を引用して書こう」で学んだことを活用させる。【自己理解】 ◇グループをいくつか組み合わせて、観点を見合う活動を取り入れる。【協同】
	ま	○体験で学んだことの価値が伝わるように、発表する。① ○体験場所に、お礼に行く。①	◇一方的に伝えるだけでなく、体験先の店の人とのやりとりを大切にするために、その店の人の工夫や努力に着目させる。 【協同】 ◇お礼の手紙と共に、図画工作と関連して作ったお礼の品を持参させる。 【自己理解】【協同】

課：課題の設定、情：情報の収集、整：整理・分析、ま：まとめ・表現

6 本時の指導 (5 / 22 時間)

(1) 本時の目標

- ・体験場所の「キャッチコピー」をチームで考える活動を通して、体験場所やそこで働く人の情報を整理・分析するとともに、お仕事体験への意欲を高める。

(2) 本時の展開

過程	学習活動 C 児童の反応例	指導上の留意点	☆評価規準 【】 評価の観点 () 評価方法
導入	①前時の学習活動を振り返る。 C お店で働いている人がどんなお仕事をしているかインタビューをした。 ②本時の学習内容を確認する。	・児童の体験活動の体験内容を板書で振り返る。 ・情報整理の仕方を確認する。	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">体験場所の人に喜んでもらえる「キャッチコピー」を考えよう。</div>			
展開	③取材したことを基に、「キャッチコピー」についてチームごとに話し合う。 C 昔からあるお店だから、「みんなに愛される味」はどうだろう。 C 油揚げがおいしいから、そのことを入れよう。 C たくさん出た考えを分類してから、一番いいものに決めよう。 ④チームごとの発表を聞き合い、意見交換をする。 C おすすめの品が入るのはいいと思う。 C おいしさを表す言葉は、他にはないだろうか。 C あのお店は、お店の人の笑顔がいいと思うから、そのことを入れたらどうだろう。 ⑤地域の人から感想を聞く。	・「キャッチコピー」の案を、付箋に書き出させる。 ・理由を意識して話し合わせるために、付箋を、「座標軸シート」上で整理・分析した上で、候補を一つ決めさせる。一つに決められない場合は、どれがいいか、皆に質問する形をとってもよいこととする。 (一つに決める観点:①体験場所の特徴を表している <u>事実</u> 、②店の人に喜んでもらえる言葉 <u>心</u>) ・児童が主体的に話し合えるように、相互に指名し合う形をとる。板書は教師が行う。 ・児童とは異なった立場である地域の人から感想を聞かせることで、よりよいものにしようとする意識を高める。	☆よりよい考えにするために、理由を述べながら話し合っている。 【収集分析】 (座標軸シート・観察) ☆観点を明確にしなが ら、よりよい考えを出し合い、意欲を高め合っている。 【協同】(観察)
まとめ	⑥各自で、「キャッチコピー」の最終決定をする。 ⑦本時の学習を振り返り、次時の活動を考える。	・本時の学びを文章化させるとともに、次時の活動の見通しをもたせる。	☆本時の活動を振り返り、お仕事体験への意欲を高めている。 【収集分析】 (ワークシート)

7 授業の分析

(1) チームでキャッチコピーをつくる活動について

「あのラーメン屋さんは、テレビに出たこともあるって、お店の人が言っていた。すごいよね。」「うちの酒屋さんは、45年も前からあるんだって。」体験場所への挨拶と取材を終えて、児童は興奮気味に語っていた。キャッチコピーづくりをきっかけにした取材活動が、意欲の高まりにつながったと考えられる。また、収集した情報を活用して協同的に学ぶためにも役立った。

「お仕事体験」を終えて帰ってくると、「店長さんにコピーを見せたら、『こんなことを言われてうれしいです。』と言われました。」と笑顔で話す児童や、「このコピーをお店にあげることにしました。」と言いながら、お礼の手紙を書き始めた児童もいた。教えてもらうだけではなく、児童が自ら体験場所の人に働きかけたことで、よりよい学びに結び付いたのではないかと考えられる。



毎年5年生が使用する「お仕事体験中」ののぼりに、考えたコピーをはりました。お店の宣伝にもなったかな。



用意していただいた、名前入りの帽子をかぶって、いよいよ体験。おいしいパンが焼けました。

〇〇豆腐店
昔から変わらない
お店の味!

キャッチ
コピー

【体験後の児童の感想】
「他の店員さんは、お客さんと笑顔で話していた。味だけでなく、人と人のコミュニケーションを大切にしていると思った。ぼくも、信頼と笑顔を大事にしたいです。」

お店の人のことも入れて、キャッチコピーを直したい!

(2) 「座標軸シート」を活用した整理・分析する活動について

自分なりに考える力はあるが、それを表出させることが苦手なA児が友達の意見を受け止めながらチームの中で積極的に話し合っていた。

また、ごみ回収業者で体験をするB児は、個人で案を考えた際、「何か所も回ってごみを集めます」「まちをきれいにします」というコピーを考えていた。シートを使って整理し、話し合うことで、①特徴と②心の二つの観点が明確になり、「ごみのないまちを目指す〇〇」、「まちのためにごみを減らすヒーロー〇〇」というように、チームで改善案をつくった。

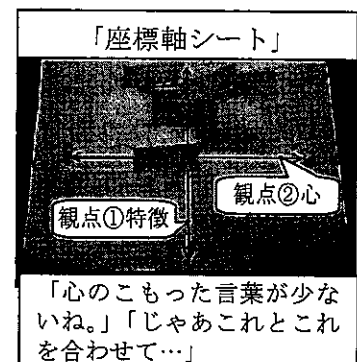


「座標軸シート」で分析中
「これは、特徴は出ているから上の方だね。心はどうだろう。」

8 考察

キャッチコピーをつくる活動は、チームで協同的に話し合うことで、体験した店のよさを考えるために有効であった。また、「座標軸シート」による整理・分析は、児童の多様な情報を整理し、協同的に学ぶために有効なツールと言える。

今後は、「座標軸シート」のより効果的な活用のため、座標軸の位置や付箋の大きさ、観点の言葉を整理する等の工夫をする。



「心のこもった言葉が少ないね。」「じゃあこれとこれを合わせて…」

実践事例Ⅱ 協同①「多様な情報を活用して協同的に学ぶ」ことに重点を置いた事例

1 単元名 6年「なりたい自分になるために」

2 単元の目標

- ・ 働く人の生き方に触れることで、生きがいを知り、これからの自分の生き方について考えることができる。
- ・ ゲストティーチャーや地域の人との関わりの中から課題を見付け、友達と協力して解決し、新たな課題に向かって探究することができる。

3 単元の評価規準

資質や能力及び態度	評価観点	評価規準
学習方法	課題設定	体験を通して、「生き方」に関する課題をもち、その解決のための方法と手順を探り、追究しようとする。
	収集分析	インタビューや体験によって収集した情報を、分析ツールを使って話し合い、整理している。
自分自身	意思決定	課題の解決のために話し合い、必要なことを判断している。
	自己理解	様々な人の生き方に触れ、自らの生活の在り方を見直し、実践しようとしている。
他者や社会との関わり	他者理解	友達や地域の人々と関わり、異なる意見や考えを受け入れている。
	協同	友達や地域の人々と協同して課題を解決しようとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) ゲストティーチャーへのインタビュー活動

児童一人一人の「なりたい自分」は様々である。しかしここでは、その夢を実現させていくために必要な、努力することの大切さや仕事のやりがい等について感じさせたい。そのために、ゲストティーチャーにインタビューをする活動を取り入れた。

インタビューをする活動は、プロとして活躍する人（複数）と商店街で働く人たちに行う。このように、多様な情報を整理・分析することで、インタビューをした人たちに共通する価値「輝く生き方」につなげることができるのではないかと考えた。

(2) キーワードを基にした話し合い活動

情報を集めるだけで終わらず、多様な情報から共通点や相違点に気付かせる。そのために、夢を実現した人やゲストティーチャーから聞いた情報を基に、輝いている人の生き方を表した「キーワード」をつくる活動を取り入れた。

「キーワード」は、①調べたことを基にして、個人で考える②個人で考えたものを基に、グループで共通点や相違点について話し合う③グループの発表を基にクラス全体で、更に共通点や相違点を共有するという流れで毎回行う。

また、一つの探究の中で終わらず、「探究Ⅱ」の活動と「探究Ⅲ」の活動を比較して共通点に気付かせることで単元を通じた探究の過程から、自分の気付きの深まりを実感させることができるのではないかと考えた。

5 指導計画 (70時間扱い)

探究	学習活動	◇指導のポイント 【】 主な評価の観点
探究Ⅰ 「あこがれの職業について調べよう」 ⑭	課 ○働くことをテーマにしてイメージマップをつくる。②	◇あこがれの職業を調べることで、生き方について考える意欲をもたせる。【課題設定】
	情 ○あこがれの職業について情報を集める。④	◇輝いている人の生き方に迫るために、仕事への思いに焦点を絞って、調べさせる。【収集分析】
	ま ○集めた情報をスクラップブックにまとめる。④	◇他の職業と比較しやすいようにキーワードで生き方をまとめさせる。【収集分析】
	整 ○集めた情報を基に友達と情報交換する。②(本時) ○輝いている人の共通点を見付けて、イメージマップに書き加える。②	◇友達との情報交換を基にして、共通点を導く。【収集分析】【他者理解】【協同】 ◇イメージマップを探究ごとに書き加えさせ、学習の深まりに気付かせる。【収集分析】【自己理解】
探究Ⅱ 「輝いている人の生き方にふれよう」 ⑳	課 ○ゲストティーチャーへの取材内容を考える。⑤	◇生き方に迫ることに視点を当て質問内容を吟味させる。【収集分析】【課題設定】
	情 ○ゲストティーチャーにインタビューする。③	◇夢を実現した思いと働くことのやりがいについて焦点を絞って話していただく。【収集分析】
	整 ○輝いている人の共通点を見付ける。③ ○他の仕事をしている人にインタビューし、比較する。⑦ ○輝いている人の共通点を基に、イメージマップに書き加える。②	◇児童が比較・検討する時に必要な情報を選択できるように、学習の経過をキーワードで分類し教室に掲示しておく。【収集分析】 ◇イメージマップを探究ごとに書き加えさせ、学習の深まりに気付かせる。【収集分析】【自己理解】
探究Ⅲ 「職場体験しよう」 ⑮	課 ○これまでの学習を振り返り、職場体験の計画を立てる。④	◇これまでの学習を基に視点をもち、働く人の生き方に迫るための計画を立てさせる。【課題設定】
	情 ○職場体験をする(インタビュー・体験)。⑥	◇体験先の方に働くことのやりがいについて話していただくように依頼する。【収集分析】
	整 ○職場体験から分かったことや自分の生活に生かしたいことを考える。⑤	◇体験を通して考えた「働く人の生き方」を改めて見つめさせ、振り返らせる。【自己理解】
探究Ⅳ 「今の自分にできること」 ⑳	課 ○輝いている人の生き方調べや職場体験を基に、自分の将来について考える。② ○「将来の自分」発表会の計画を立てる。①	◇学習の蓄積を基に視点をもち、これからの自分の生き方について考えるための計画を立てさせる。【課題設定】【意思決定】
	情 ○「将来の自分」について考え、作文を書く。③	◇これまで学習してきたことの記録を基にして作文を書かせる。【意思決定】【自己理解】
	整 ○「将来の自分」スピーチの練習をする。② ○友達と交流し、スピーチ内容や方法を修正する(中間報告会)。②	◇友達の作文のよさに気付かせ、自分の作文にも生かしながら修正させる。【他者理解】【協同】
	ま ○家族や地域の人に発表する(発表会)。②	◇自分の思いや考えを発表する場を設定する。【他者理解】
	課 ○自分の生活を見つめ直して、実践したいことを考え行動計画を立てる。③	◇様々な人の生き方から分かったことを自分の生活に生かすという観点から計画を立てさせる。【課題設定】【意思決定】
	ま ○行動計画を基に、実践する。③ ○実践状況を報告する。②	◇実践を基にして自分の思いや考えを語る場を設定する。【他者理解】【自己理解】

課：課題の設定、情：情報の収集、整：整理・分析、ま：まとめ・表現

6 本時の指導 (12 / 70 時間)

(1) 本時の目標

- ・友達と交流して情報を整理・分析し、輝いている人の生き方に関する共通点を見付ける。

(2) 本時の展開

過程	学習活動 C 児童の反応例	指導上の留意点	☆評価規準 【】評価の観点 () 評価方法
導入	①本時の学習内容を確認する。	・自分とは異なる情報を集めた友達と交流することを確認する。	
自分たちが調べた、輝いている人の共通点を見付けよう。			
展開	<p>②キーワードを使って整理したスクラップを基に交流する。</p> <p>C 自分が調べた「輝いている人」は、失敗してもあきらめず、努力を続けている。</p> <p>C 仕事は異なるが、強い気持ちで夢を実現しようとしているところは共通している。</p> <p>③グループでの話し合いを基に見付けた共通点や相違点について発表をする。</p> <p>C どんな職業でも夢に向かって努力を続けている。</p> <p>C あきらめない、強い気持ちをもっているところが似ている。</p>	<p>・事前に集めた情報をキーワードで整理してスクラップにまとめさせ、互いの情報を比較できるようにしておく。</p> <p>・情報を基に共通点や相違点について話し合っているグループを全体に紹介し、他のグループの話し合いを活性化させる(視点:輝いている人の思い、生き方)。</p> <p>・共通点や相違点を分類しながら板書する。</p> <p>・他のグループの発表を聞いて、似ている点や付け足す点などを適宜、発言をつないで、生き方について思考を広げられるようにする。</p>	<p>☆友達との情報交換で輝いている人の生き方について共通点や相違点を見付けている。</p> <p>【協同】 (ワークシート・観察)</p> <p>☆他のグループの発表を聞きながら、自分たちのグループの考えとの共通点や相違点について話し合っている。</p> <p>【収集分析】 (ワークシート・観察)</p>
まとめ	④本時の学習を振り返る。 C 輝いている人の共通点は、あきらめない心、努力、自分の仕事に誇りをもつことだった。 C 自分も強い気持ちで目標に向かっていける人になりたい。	・今日の授業で分かったことや自分の生活に生かしたいことについて発表させる。	☆輝いている人の生き方に触れ、自分の生活に生かせることを考えている。 【自己理解】 (ワークシート)

7 授業の分析

(1) インタビューをする活動について



夢を実現した人から話を直接聞くことで、目標に向かって努力することの大切さや仕事をする中で見つけたやりがい、大事にしている生き方について直接に感じる事ができた。また、異なる職業のゲストティーチャーに話を聞くことで、比較しながら整理・分析し、共通点を見付けることができたことが児童の振り返りから分かった。

夢の実現には苦しくても努力が必要だと分かった。そして、夢をかなえたことで自信が付き、自分に誇りをもつ「輝いている人」になれるのだと思った。

自分の職業に自信をもち誇りに思えるのは、その仕事が好きだからだと思った。話を聞いた二人とも仕事が好きということが共通していた。

以前、話を聞いた先生も「ありがとう。」と言われるとうれしいと言っていた。僕は、一つ一つの職業には、感謝される場面があり、周りの人との関わりがあるのだと思った。

(2) キーワードを基にした話し合い



輝いている人の生き方についてスクラップブックにまとめ、グループで交流した。生き方ややりがいについて、キーワードを基に話し合うことで、共通点や相違点について気付かせることができた。さらに、新たな課題を見いだしている児童もいた。下にあるような児童の振り返りからは、情報を交流することのよさに気付くことができる学習であったことが分かった。

友達と意見を交流し合うことで働く人の思いをイメージすることができた。「強い気持ちをもつこと」を自分の夢の実現に生かして、ぼくも輝いている人になりたいと思った。

友達と交流しながら話し合うことで、自分の意見を深められた。そして、自分の意見と同じところや違うところに気付くこともできた。

今日の学習で、働くことの大変さや新たな情報をもっと知りたくなった。そして、学んだことを生かして、これからどのような努力をしたらよいのか考えたい。

8 考察

児童は互いの考えを比較しながら話し合うことで、共通点や相違点に気付くことができた。また、一人だけではなく、学級全体で比較し分析することで、自分だけでは気付くことができなかった視点を整理することができ、友達と協同して問題を解決するよさを味わうことができた。さらに、話し合いの様子を分類・整理して示すことで、「もっと違った人も調べてみたい。」「直接話を聞きたい。」などの新たな課題意識をもたせることもできた。

今後は、児童が主体的に情報を選択したり、活用したりすることができるように、情報を整理・分析をするツール等を開発し、それを指導に生かしていくことが課題である。

実践事例Ⅲ 協同②「異なる視点から考え協同的に学ぶ」ことに重点を置いた事例

1 単元名 5年「災害に強いまちづくりプロジェクト2011」

2 単元の目標

- ・災害に強いまちづくりのために、まちに災害が起きたことを想定したまち歩き活動を通して、まちや地域の人々の思いに触れ、命の大切さを感じ、安全・安心なまちづくりへの意識をもつ。
- ・様々な立場の人から防災について聞いたり、地域の防災マップ作りを通して、防災マップ作りを行うことの意義や意味について考え、地域の人々と関わったり、友達と互いの意見を交換したりして、協同的に学習することのよさを十分味わう。

3 単元の評価規準

資質や能力及び態度	評価観点	評価規準
学習方法	課題設定	体験を通して、地域の防災に対して自分自身の課題を見付け、その解決のための方法と手順を探り、追究しようとしている。
	収集分析	集めた情報の中から必要なものを選んだり、情報を関連付けたりしている。
自分自身	意思決定	集めた情報を基にして、課題に対する解決方法を考え、必要なことを判断しようとしている。
	自己理解	地域の防災に関して、様々な立場の人々と交流することで、自分の生活を見直し、実践しようとしている。
他者や社会との関わり	他者理解	友達や地域の人々と関わり、様々な立場からの意見や考えを受け入れている。
	協同	友達や地域の人々と協同して課題を解決しようとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) 地域の人や専門家へのインタビュー活動

立場によってものごとの見方は異なり、世の中には多様な考え方が存在することに気付かせたい。様々な立場の人の意見を聞くために、ここでは児童が地域に参画する授業を展開することが必要となる。本校においては、地域と結び付きの強い学校コーディネーター（授業等で地域の人材を活用する際に、人材を紹介してくれる人）に単元の指導計画を事前に伝え、地域の人々に関わっていただくこととした。

(2) KJ法的な手法で整理・分析する活動

付箋を活用したKJ法的な手法を用いることで、地域の人にインタビューをする活動を通して分かったことや気付きを類型化して、次への課題を見いださせたい。付箋一枚に対して一つの項目のみ記入し、類型化した付箋にタイトルやキーワードを付けさせる。個人の課題を集団の課題にしていくとともに、異なる立場から意見を出し合い、共通点や相違点に着目し、整理・分析させるためにも有効な手だてであると考えた。

5 指導計画（29時間扱い）

探究	○学習活動	◇指導のポイント 【】主な評価の観点
探究Ⅰ 「地震！その時何をすべきか？」⑧	課 ○地震に対して、知りたいことを考える。①	◇ウェビングでイメージを広げて、課題設定を行わせる。【課題設定】
	情 ○インタビューをする人を決め、インタビュー活動の準備をする。① ○インタビューを通して、地域の人から地震が起きたときのために必要な情報を集める。④	◇自分の課題を解決することができる人にインタビューができるよう、インタビューをする人の話の内容を簡単に紹介し、選ばせる。【意思決定】 ◇各自の課題に即したインタビューができるよう、適時インタビューをする人の情報を与えるなどして情報を収集させる。【他者理解】【収集分析】
	整 ○インタビューしたことを基に、付箋を活用して、情報を整理・分析する。①（本時）	◇KJ法的な手法を使って、グループで検討させる。 ◇地域の人のお話を聞くことで、よりよくしようとする意識を高める。【協同】【収集分析】
	ま ○振り返りカードで、まとめをする。①	◇ワークシートに書かせ自己を振り返らせる。【自己理解】
探究Ⅱ 「防災マップ作り」⑩	課 ○防災マップを作成する計画を立てる。①	◇問題を序列化して考えさせる。【課題設定】
	情 ○まち歩きとインタビューをする。③	◇倒れそうなものや物が落ちてきそうなところに気付かせるよう助言しながら、まちを歩かせる。【自己理解】【収集分析】
	整 ○発見したことやインタビューしたことを、マップに書き込む。③	◇エリアごとに調べた情報をマップで整理・分析することで、エリアの特徴をつかませる。【意思決定】【収集分析】
	ま ○学んだことについて、3年生に伝える。③	◇マップを活用させながら、説明させる。【他者理解】【協同】
探究Ⅲ 「伝えよう、発信しよう」⑪	課 ○他学年、地域の人にどのように伝えるか話し合う。①	◇KJ法的な手法により、課題設定を行わせる。【課題設定】【意思決定】
	情 ○震災で大きな被害を受けた人の話を聞く。①	◇交流先の小学校に手紙やファクシミリを送り、情報を集めさせる。その際、自分たちの都合を優先し、他者を傷付けることのないよう配慮する。【収集分析】
	整 ○災害について学んだことをまとめ、伝えるための発表資料を作る。⑤	◇交流先の小学校から聞いた話と、自分たちの考えをベン図で比較させる。【自己理解】【他者理解】
	ま ○災害について学んだことが伝わるように練習をし、発表する。③ ○今までの学習の振り返りをし、災害に強いまちづくりについて考える。①	◇思いや考えを伝える場面を設定し、言語活動の充実を図る。【協同】

課：課題の設定、情：情報の収集、整：整理・分析、ま：まとめ・表現

6 本時の指導 (7 / 29 時間)

(1) 本時の目標

- ・地震に備えて、今から自分たちにできることを考える。

(2) 本時の展開

過程	学習活動 C 児童の反応例	指導上の留意点	☆評価規準 【】評価の観点 () 評価方法
導入	<p>①前時で行った各グループのインタビュー活動を振り返る。</p> <p>②本時の課題をつかむ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・集めた情報を、付箋に書かせておき、グループごとに分けておく。 ・学習の流れを確認し、本時の発表に対して意欲をもたせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">地震に備えて、今から自分たちにできることを考えよう。</div>			
展開	<p>③各グループから出た付箋の内容を分析する。 C Aさんと、Bさんは、地震を経験して必要と思ったことが同じだ。 C 立場が違うと、地震の時にとる行動も様々だ。</p> <p>④付箋の分析から、何が分かったかを発表する。</p> <p>⑤情報を基に、今から自分にもできることを、見付ける。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・前時にインタビューした結果を付箋に書いておき、様々な立場の人の意見を、分析できるように用意しておく。 ・項目ごとに分析しやすいように、事前に付箋を色分けしておき、同じ意見の付箋は重ねていく。 ・ラミネート板を使って、項目ごとに分類させる。 ・各グループから出た付箋から、キーワードをピックアップして、赤線を引く。 ・今からできそうな項目を、発表させ、次時への課題をもたせる。 	<p>☆整理したインタビュー結果から、情報を分析している。 【収集分析】 (観察・発言)</p> <p>☆様々な立場の方の意見や考えを、受け入れている。 【他者理解】 (発言・付箋)</p>
まとめ	<p>⑥今から自分たちにできることをワークシートに書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・学習内容についての記述だけではなく、協同して取り組む学習についての自己評価も記入し、振り返りの時に活用できるようにする。 	<p>☆積極的に自分の考えを表現しようとしている。 【自己理解】 (ワークシート)</p>

7 授業の分析

(1) 地域の人や専門家へのインタビュー活動について

今回は、児童に身近な地域の人以外に、防災について詳しい消防署の方、近隣の施設に関わる人をゲストティーチャーとしてお招きした。インタビュー活動を行う前に、児童にはゲストティーチャーのそれぞれの立場を話しておき、質問したいことを事前に考えさせた。また、ゲスト



大地震がきてからではなく、近所の方と常に「挨拶」を交わし、コミュニケーションを取っておくことが、必要ということが分かりました。

ティーチャーにも、児童から出される質問内容を伝えておき、インタビューがスムーズに流れるようにした。インタビューの時には、話すだけでなく、防災に関するグッズを持参して児童に見せてくださり、児童にとって理解しやすいものとなった。様々な立場の地域の方に関わる直接体験を中心として活動を行うことで、職業等によって果たす役割が異なることに気付くことができた。

(2) KJ法的な手法で整理・分析する活動について

地域の方の考えを付箋に書き、グループで整理・分析をした。付箋は、重ねたり取り外したりしてすることが簡単なので、児童は集中して分析をすることができた。この方法を用いて地域の方や友達と共に活動する中で、地域の安全を見つめ直し、課題意識をもち、意見交換ができた、様々な立場の方からの思いを受け止めたりすることができた。



立場は違うけど、AさんとBさんの考えは、同じだったね。地震に備えて非常袋の中に必要最低限の物を入れているね。



様々な意見をグループに分け、キーワードを見付けると、地震に備えて今からやっておくことが分かりやすいね。

8 考察

地域の人から話を聞く機会を設定することで、様々な立場での考えや意見を直接情報として得ることができた。また、グループ学習においてKJ法的手法を使うことで、様々な立場の考えや意見をグループ化したり、必要に応じて整理・分析したりすることができた。このような手だてによって児童は、地域の人々との交流から様々な立場の人の考え方を知り、自分たちの生活を振り返り、自己の生き方を考えることにつながった。

今後は、更に地域の人と関わる活動を継続して行い、意図的・計画的に自分とは異なる立場の人から情報を得て整理・分析する際の指導を工夫していく。

実践事例Ⅳ 協同③「力を合わせたり交流したりして協同的に学ぶ」ことに重点を置いた事例

1 単元名 3年「みんなの自然を守ろう ～ヤゴの飼育を通して～」

2 単元の目標

- ・プールに生息していたヤゴを飼育する活動を通して、ヤゴやトンボについて親しみをもつとともに、身近な自然に興味をもち、大切にすることができる。
- ・ヤゴの飼育や調べたことを知らせる活動を通して、ヤゴの飼育を行うことの意義や意味について考え、水辺で暮らす生き物の生態や環境に気付くとともに、友達や他学年、地域の人々と関わることで、協同して取り組むよさを味わう。

3 単元の評価規準

資質や能力及び態度	評価観点	評価規準
学習方法	課題設定	ヤゴについて知りたいことを課題に設定し、その解決のための方法と手順を探り、最後まで追究しようとする。
	収集分析	ヤゴについて、様々な方法で調査し、分かったことの中から必要なものを選び出している。
自分自身	意思決定	課題を解決するために話し合い、必要なことを判断している。
	自己理解	ヤゴの飼育を通して今までの自分を振り返り、身近な自然に進んで親しみ、関わっていこうとしている。
他者や社会との関わり	他者理解	友達や家族、地域の専門家と関わり、様々な人の意見や考えを受け入れている。
	協同	友達や家族、地域の専門家と協同して課題を解決しようとしている。

4 研究主題に迫る手だて

(1) 地域の自然活動に取り組む専門家から学ぶ活動

児童がヤゴを飼育するに当たっては、分からないことや、育てることへの不安を解決するために、地域の自然活動に取り組む専門家から学ぶ活動を取り入れた。専門家と繰り返し関わり、ヤゴの生態や身近な自然などの生きた情報を収集していくことで、児童が正しい知識を得たり、幅広く考えたりできるようにした。児童に必要感をもたせることで、協同して取り組むことのよさを感じながら、よりよく問題を解決していけると考えた。

(2) 発表を繰り返す学習過程

より相手を意識し、分かりやすく伝える表現方法を考えられるようにさせたい。そこで、家族や地域の人、他学年の児童に向けて何度も発表を行う活動を取り入れた。発表の練習やアドバイスを繰り返させることで、力を合わせてできたという達成感を味わわせたい。

(3) 課題別のグループ活動

これまでの学習活動では、生活班で活動することが多かったが、より課題を意識した学習活動にするために、意図的に同じ課題を設定した友達とグループを作らせ、話し合ったり、課題を追究したりする場面を設定することで、友達と力を合わせて考え、課題の解決に向けて学習を進めていけるようにした。

5 指導計画（17時間扱い）

探究	○学習活動	◇指導のポイント 【】主な評価の観点
探究Ⅰ 「プールのヤゴを助けよう！」 ④	課 ○ヤゴの生態に関する資料を読み、プールにいるヤゴについて知る。①	◇実際にプールのヤゴを見せることで、意欲を高める。【課題設定】
	情 ○ヤゴを飼育するために準備するものを、本やインターネット、家の人などへのインタビュー等で調べる。	◇ヤゴを育てた経験のある上級生や家の人からも情報を収集するよう投げかける。【収集分析】
	整 ○調べたことを基に、ヤゴを飼育するためにどうしたらよいか、話し合う。①	◇調べてきた情報を、「ヤゴ情報カード」で整理・分析させる。【協同】【意思決定】
	表 ○グループでヤゴをプールから救出する。① ○活動を振り返り、「ヤゴ日記」を書く。①	◇ヤゴへの抵抗感を和らげ、意欲的な活動を促すため、グループでヤゴの救出をさせる。 ◇「ヤゴ日記」に、救出したときのことやヤゴの様子、考えを書かせることで、活動を振り返ることができるようにする。【協同】【自己理解】
探究Ⅱ 「ヤゴを育てよう」 ⑤	課 ○ヤゴの飼育について分からないことや困っていることを出し合い、解決方法を話し合う。①	◇全員がヤゴに関われるよう、一人一匹ずつヤゴを育てさせる。 ◇解決方法として地域の専門家に聞く方法があることを知らせる。【課題設定】
	情 ○「ヤゴ日記発表会」で、家の人に何を知らせたいか考える。①	◇今までのヤゴとの関わりの中で心に残ったことを、箇条書きに書かせる。【収集分析】【意思決定】
	整 ○「ヤゴ日記発表会」を開くため、資料の準備や練習をする。①	◇いくつかのグループごとに発表練習をさせることで、より伝わりやすい資料に改善させていく。【収集分析】【協同】
	表 ○「ヤゴ日記発表会」を行う。 ○地域の専門家に感想を聞く。①	◇他の人の発表を聞く際には、内容のよさをカードに書き込ませることで、情報を共有させる。 ◇地域の専門家にも児童の発表を見てもらい、感想やアドバイスを話してもらう。【協同】【他者理解】
探究Ⅲ 「みんなにヤゴのことを教えよう！」 ⑧	課 ○ヤゴを育ててみて、もっと知りたいと思ったことを出し合い、課題を設定する。①	◇協同的な学習活動が行えるよう、同じ課題を設定した児童でグループを作らせる。【課題設定】【意思決定】
	情 ○もっと知りたいことについて、グループごとに調べる。①	◇グループでの活動を設定し、協力して多くの情報を収集したり、集めた情報を整理したりできるようにする。【協同】【収集分析】
	整 ○2年生に対して「ヤゴ発表会」を開くことを話し合って決め、調べて分かったことをグループで整理する。① ○調べて分かったことを、効果的に伝える方法を話し合い、準備する。② ○2年生に伝えることを意識して発表のリハーサルを行い、互いにアドバイスし合う。①（本時）	◇調べたことを発信する活動を設定することで、学習への意欲を高める。 ◇本番と同じポスターセッション形式のリハーサルを設定する。 ◇地域の専門家にもリハーサルを見に来てもらい、発表内容が更によくなるよう、アドバイスをしてもらう。【協同】【他者理解】
	表 ○「ヤゴ発表会」を行い、ヤゴについて調べて分かったことを2年生に知らせる。① ○水辺で暮らす生き物の生態や環境について考えるを通して、身の回りの自然に対するこれからの関わり方について考える。①	◇リハーサルの時のアドバイスを生かし、発表を行わせる。 ◇ヤゴ日記をまとめた「ヤゴの本」を作らせることで、学習活動を振り返り、これからの自分について考えをまとめることができるようにする。【協同】【自己理解】

課：課題の設定、情：情報の収集、整：整理・分析、表：まとめ・表現

6 本時の指導（15 / 17時間）

(1) 本時の目標

- ・ヤゴについて調べて分かったことをグループで発表したり、友達の発表を聞いたりすることで、ヤゴについての考えを深めたり、自分たちの発表内容や方法の改善点を考えたりすることができる。

(2) 本時の展開

過程	学習活動 C 児童の反応例	指導上の留意点	☆評価規準 【】 評価の観点 () 評価方法
導入	①今までの学習活動を振り返る。 C たくさんのヤゴがボールにいた。 C えさを食べなくて心配した。 C トンボになってうれしかった。 ②本時の課題をつかむ。	<ul style="list-style-type: none"> ・児童の体験を基に振り返る。（楽しかったことや苦労したことなど） ・学習の流れを確認し、本時の発表に対して意欲をもたせる。 	
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;">調べたことを分かりやすく伝えられるように、リハーサルをしよう。</div>			
展開	③グループごとに調べたことを発表し合う。（ヤゴの成長の様子・体の作り・種類等） ④他のグループの発表を聞いた感想を交流する。 ⑤地域の専門家に発表を聞いた感想や新たな情報を教えてもらう。	<ul style="list-style-type: none"> ・ポスターセッション形式で発表を行い、交代で各グループの発表を見て回れるようにする。 ・地域の専門家にも発表を見てもらう。 ・ワークシートを用意し、他のグループの発表を聞いて感じたことや考えたことを記入することで、感想や考えが交流できるようにする。 ・地域の専門家に児童の発表の感想を話してもらったり、児童が調べてもよく分からなかった疑問などに答えてもらったりする。 	☆グループの友達と協力して、調べたことを発表している。 【協同】 ☆友達の発表や感想を聞いて、ヤゴについて知識や考えを深めている。 【他者理解】 （観察・ワークシート）
まとめ	⑥2年生へ分かりやすく伝えるために、もっとよくしたいところを考え、発表する。	<ul style="list-style-type: none"> ・他のグループや地域の専門家からの感想やアドバイスを聞き、自分たちの発表がもっと分かりやすくなるためにどうしたらよいかを考えさせることで、次回の学習活動の見通しをもたせる。 	☆発表を分かりやすくしようと、改善点を考えている。 【自己理解】 （観察・ワークシート）

7 授業の分析

(1) 地域の自然活動に取り組む専門家から学ぶ活動について

地域の自然活動に取り組む専門家から学ぶ活動を取り入れ、児童が分からないことやヤゴやトンボに対する関心が広がるような情報を直接教えていただいた。児童は、その後ヤゴに対して自信をもって関わる姿が見られるようになった。

また、ヤゴやトンボについての理解が深まり、「〇〇について調べてみたい」と「探究Ⅲ」の「みんなにヤゴのことを教えよう」では、課題を決めるきっかけとなった。

さらに、専門家からヤゴの種類や生態についても学ぶことができ、「探究Ⅲ」のまとめで環境問題について考えるためのヒントを得ることができた。



学校のプールだけではなく、学校の周りの川や池にも、いろいろな種類のヤゴがいるんだね。ヤゴを育てるためには、自然を大切にしなければいけないんだね。

地域の専門家との交流後の感想から
「えさのやり方やいろいろなことを教えてもらえてよかったです。わたしのヤゴがえさを食べるようになってくれてうれしいです。」

(2) 発表を繰り返す学習過程について

分かったことをいろいろな人々へ発信する活動を取り入れたことで相手を意識し、伝える相手に応じて分かりやすく伝える表現方法を考え、話し方や資料の見せ方などを工夫する姿が見られた。

2年生へ発信後の感想から
「2年生に『ヤゴはこういう動きをするんだよ。』とヤゴを見せて教えてあげたら、2年生のみんながお手紙をくれたので、うれしかったです。」



発表を聞いた2年生からの手紙から
「わたしはあまりヤゴのことを知りませんでした。でも、3年生の人たちが分かりやすく教えてくれたので、よく分かりました。3年生になったら、ヤゴの好きなものを調べたいです。」

(3) 課題別のグループ活動について

初めは虫が怖くて触れなかった児童が、友達と一緒に活動したことで「自分もたくさんのヤゴを飼育したい」と意欲をもち、プールの中からヤゴを積極的に見付けることができた。また、同じ課題でグループを作り、協力して情報収集や整理、発表の活動を行わせたことで、多様な考えを出し合い、その中からよりよいものを選ぶ姿が見られた。さらにリハーサルでは、他のグループの発表を聞いたことにより、他者のよさを取り入れたり、自分たちの発表を改善したりする姿が見られた。



ヤゴを飼育した感想から
「はじめはヤゴを持ってなかったけど、みんなと一緒によいものを選んだらよかったから、プールからいっぱいヤゴを見付けられてうれしかったです。」

8 考察

その時間の目標や身に付けさせたい力に応じて関わる他者を設定し、交流したり力を合わせたりする学習活動を繰り返し取り入れたことにより、児童は正しい知識を獲得し、相手を意識して表現の方法を工夫したり、相手のよさに気づき取り入れたりしながら、よりよく問題を解決することができた。

今後も、児童が更に幅広く情報を収集したり、相手に応じたよりよい表現方法を工夫したりできるように、様々な他者と交流する活動や友達と力を合わせて課題を解決する活動を意図的に経験させ、よりよく問題を解決する力を伸ばしていく。

VI 研究の成果と課題

1 研究の成果

(1) 各実践から

「多様な情報を活用する」の実践事例Ⅰでは、キャッチコピーを作るという活動の目的が明確であったことや多様な情報を分析するためのツールとして「座標軸シート」(8ページ44(2))『座標軸シート』を活用した整理・分析する活動を参照)を活用したことにより、児童は収集した情報を活用しながら協同的に話し合いをし、問題を解決することができた。また、実践事例Ⅱでは、インタビューをする活動を取り入れ、地域の人から得た情報を基に話し合いをしたことや共通点や相違点に着目して情報を整理したことにより、児童は他者と協同して取り組む学習活動のよさを実感すると共に、新たな課題意識をもつこともできた。

「異なる視点から考える」の実践事例Ⅲでは、自分とは異なる立場の人の考えを聞いて情報収集をし、その情報を協同的に整理・分析したことで、今の自分に何ができるのか具体的に考えることができた。

「力を合わせたり、交流したりする」の実践事例Ⅳでは、地域の専門家に教わることで、正しい知識を獲得し、課題を適切に設定することができた。また、発信を繰り返すことやグループ活動を工夫したことにより、相手を意識して表現方法を工夫したり、相手のよさに気づき、発表を改善したりすることができた。

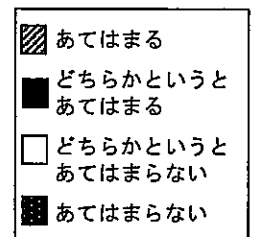
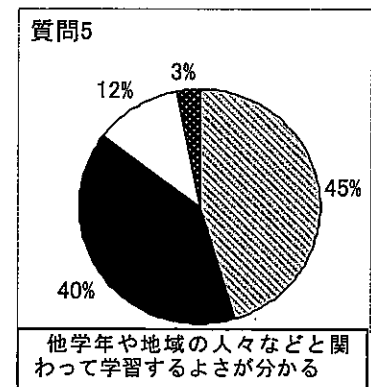
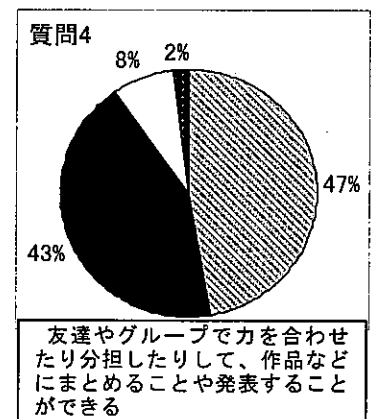
(2) 調査分析から

授業実践後、授業実践前に行った質問項目と同項目で調査を実施した。その結果、質問4「友達やグループで力を合わせたり分担したりして、作品などにまとめることや発表することができる」で「あてはまる」と回答した児童の割合は、事前調査と比較すると16%増加した。また、質問5「他学年や地域の人々など関わって学習するよさが分かる」で「あてはまる」と回答した児童の割合は、13%増加し、児童の変容が見られた。

以上の実践及び調査の分析から、他者と協同して取り組む「多様な情報を活用する」「異なる視点から考える」「力を合わせたり交流したりする」学習活動を意図的・計画的に単元の指導計画に位置付け、児童がこれらの学習活動を主体的に行うことができるよう具体的な手だてを講じることで、よりよく問題を解決する児童を育成することができた。

2 今後の課題

今後は、他者と関わりながら児童が多様な情報を活用し、それを整理・分析してよりよく問題を解決する学習活動の適切な単元の指導計画への位置付けや学習展開を追究する。



平成23年度 教育研究員名簿

小学校・総合的な学習の時間

地区	学校名	職名	氏名
江東区	江東区立南砂小学校	主幹教諭	中野 健児
杉並区	杉並区立四宮小学校	主任教諭	○ 亀山 奈津紀
武蔵野市	武蔵野市立第一小学校	主任教諭	河住 有美枝
小平市	小平市立小平第四小学校	主任教諭	米持 淳一
小平市	小平市立鈴木小学校	主任教諭	◎ 三宮 尚子

◎ 世話人 ○ 副世話人

[担当] 平成24年4月～平成24年8月

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

指導主事 佐々木 由美子

平成24年9月～平成25年3月

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

指導主事 濱辺 理佐子

東京都教職員研修センター研修部教育開発課

指導主事 高瀬 智子

平成23年度

教育研究員研究報告書

小学校 総合的な学習の時間

東京都教育委員会印刷物登録

平成23年度第181号

平成24年 3月

編集・発行 東京都教育庁指導部指導企画課

所在地 東京都新宿区西新宿二丁目8番1号

電話番号 (03) 5320-6836

印刷会社 有限会社 シーダー企画